

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500570

研究課題名（和文）琉球舞踊における動作単元データベース『動作辞書』を活用した比較技法研究

研究課題名（英文）Study on Comparison Techniques Utilizing the “Movement Dictionary,” a Database for Movement Units in Ryukyuan Dancing

研究代表者

波照間 永子（HATERUMA NAGAKO）

明治大学・情報コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：80336487

研究成果の概要（和文）：

本研究は、申請者がこれまで実施してきた二つの研究プロジェクト——「琉球舞踊の動作単元データベース『動作辞書』構築事業」と「伝承過程オーラル・ヒストリー映像アーカイブ構築事業」——を統合した舞踊技法の総合的なデータベース形成を企図したものである。具体的には、「動作辞書」で抽出した分析指標を用いて、流会派間で伝承されてきた技法の比較研究を実施した。また、比較にあたり、インフォーマントの「伝承の系譜」を調査する意義を提示した。

研究成果の概要（英文）：

This study is to propose the creation of a comprehensive database for dancing techniques by integrating two study projects previously conducted by the applicant: the “Project to Develop the ‘Movement Dictionary,’ a Database for Movement Units in Ryukyuan Dancing” and the “Project to Develop an Image Archive for Oral History of the Process of Transmission.” Specifically, a comparative study on techniques handed down among schools was conducted by using the analysis index extracted with the “movement dictionary.” Significance to research the informant’s “genealogy of transmission” was also presented for comparison.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：舞踊学・舞踊教育学・芸術学・芸能学・身体技法・舞踊技法・琉球舞踊

1. 研究開始当初の背景

琉球は地理的・歴史的にもアジア太平洋地

域の要として位置づけられる。同地域の舞踊は手指によって多様な心象を表現するという

共通の特徴があり、これまでも手指をはじめとする上肢動作の類似性が指摘されてきた(Lomax 1972・三隅 1987他)。しかし、その特性を明らかにした研究は少ない(Kaeppler 1972～)。琉球舞踊の上肢動作を明らかにすることは、アジア太平洋地域の舞踊文化を記録・解明する一助になるだけでなく、同地域の舞踊を比較研究する手法を提示できると考える。

2. 研究の目的

申請者はこれまで、琉球の芸術舞踊および祭祀舞踊の動作単位、いわゆる「動作単位」を調査・分析し、「動作特性」と関連する他の要素—「動作名称」「音楽譜」「演目」「わざ言語」等—を相互に参照して表示する動作単位データベース「動作辞書」“Movement dictionary of traditional dance in Okinawa”の試作・試用を行ってきた。→【科研費若手 B(2002-05)、ACC Fellowship Grant(2002-05)、科研費若手 B(2006-08)】

本辞書は、沖縄県指定無形文化財技能保持者である志田房子氏(芸術舞踊・重踊流)およびシヌグ舞(祭祀舞踊・北部本部町)に焦点をあて深く踏査・分析した資料をもとに構築したデータベースである。

さらに2006年以後は、本データベースを用いて、芸術舞踊の流派間の比較を実施すべく、複数の流派の無形文化財保持者を対象に、個々の演目や動作単位の伝承過程に関する詳細な聞き取り調査をすすめてきた。→「琉球舞踊オーラル・ヒストリー映像アーカイブの構築事業」【サントリー文化財団助成(2005-2006)、ポララ伝統文化振興財団助成事業(2006-2007)】

そこで、本研究では、これまで実施してきた二つの研究、「動作単位データベース(動作辞書)構築事業」と「伝承過程オーラル・ヒストリー映像アーカイブ構築事業」を統合し、芸術舞踊の流派間の比較研究を実施し、その成果を含めた総合的なデータベースの構築を企図したものである。

3. 研究の方法

年度別に方法の概要を記す。

(1) 2009年度

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」〈総合認定〉保持者一名(志田房子氏)の「わざ言語」の特性を、伝承過程を聴取した際のデータから抽出した。

関連研究として、琉球舞踊の流会派に家元制度が導入されていくプロセスを、沖縄タイムス社の新聞記事をもとに分析した。また、動作単位データベースをもとに男踊りと女

踊りの技法構造を比較・考察した。

(2) 2010年度

動作単位データベースの動作特性データの再検討を行った。具体的には「コネリ手」と呼ばれる代表的な上肢による技法をとりあげ、動作学的指標で分析し、手指関節・前腕・上肢挙上位置・左右上肢の対称性や非対称性を指標に類型化した。

分担者(花城)の協力を得て、玉城盛重系三流派—玉城流(玉城盛義)・島袋流(島袋光裕)・宮城流(宮城能造)—の高弟6名における「ガマク入れ」技法時の身体意識を聞き取り調査により聴取するとともに、同技法施行時の運動特性を身体科学的手法(筋電図・動作分析)により解明した。

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」〈総合認定〉保持者一名(志田房子氏)のオーラル・ヒストリー研究の成果を報告書としてまとめるべく公開用データの作成を行った。具体的には、インタビュー時に得た返答の公開部分を確認してもらうため数回の聞き取り調査を実施するとともに、発話時の沖縄方言に標準語による翻訳をつける等の下作業を実施した。

関連研究として、「動作単位データベース」の下肢の単位(立ち方・足拍子・割り足等)を用いて、幼児向け民俗芸能教材「子どもエイサー」の開発を試みた。

(3) 2011年度

最終年度にあたり、これまでの成果を国際学会会議にて報告するほか、論文や図書にて公開した。詳細は研究成果および主な発表論文・図書を参照いただきたい。

4. 研究成果

年度別に研究成果の概要を記す。

(1) 2009年度の成果

①アーカイブの公開

平成21年度は、五流派—重踊流、玉城流翔節会、大城流、渡嘉敷守良流東京・沖縄芸能保存会、親泊本流—の伝承過程に関する研究成果を、「琉球舞踊オーラル・ヒストリー映像アーカイブ」としてホームページ上に公開した。インタビュー内容の要旨、どのメディアにどれくらいの時間収録したか、テープおこしテキストの有無、芸歴書、公演プログラム、記録映像の所在等のデータ一覧である。

②「わざ言語」の研究、技法にみる男女の比較、流会派「家元制度」の発生と展開

上記、五流派のうち、重踊流のインフォーマントについては、「わざ言語」の特性を分析するとともに(日本体育学会大会報告)、

男踊りと女踊りの技法構造の比較を行い、韓国全北大学校主催の国際シンポジウムにて報告した。

さらに、琉球舞踊に流会派（家元制度）が発生し展開していく過程を日本本土の家元制度との比較において解明した（日本スポーツ人類学会大会シンポジウム報告）。

(2) 2010年度の成果

① 上肢技法「コネリ手」の類型（波照間）

琉球舞踊の代表的な技法である「コネリ手」を対象に、動作学的指標をもちいて類型化を行った。本結果は平成20年度までに実施した動作単元データベースの指標の再検討を行ったものである。その成果を『比較舞踊研究』第16巻に原著論文として公表した。

② 「ガマク入れ」技法の流会派間の比較 （花城）

平成21年度に引き続き、玉城盛重系流会派における「ガマク入れ」技法の継続研究を実施した。「ガマク入れ」伝承時におけるインフォーマントの身体意識にとどまらず、身体科学的手法による結果もあわせてその特性を明らかにした。同成果を平成22年3月の日本スポーツ人類学会大会（於：明治大学）にて報告予定であったが震災で中止になったため、22年9月に開催された日本体育学会大会（於：鹿屋体育大学）にて報告した。

③ 「動作単元データベース」を活用した教材作成の試み（波照間）

「動作単元データベース」の指標を基に、幼児向け民俗芸能教材を考案した。その成果を平成22年9月に開催された日本体育学会大会（於：中京大学）にて公表した。

④ 根路銘（志田）房子オーラル・ヒストリーアーカイブ報告書の作成（波照間）

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」〈総合認定〉保持者である志田房子氏のオーラル・ヒストリー（公開版）を報告書にまとめた。

(3) 2011年度の成果

最終年度にあたり、これまでの研究成果を国際シンポジウムにて公開するほか、国内外の学術機関誌に投稿・発表した。

① オーラル・ヒストリーと「わざ言語」 （波照間）

韓国舞踊史学会と漢陽大学校ウリチュム研究所が主催する国際学術シンポジウムにおいて、国指定重要無形文化財「琉球舞踊」〈総合認定〉保持者のオーラル・ヒストリー研究―「わざ言語」の変容―に関する成果を発表し論文として公開した（『우리춤연구』）。さらに、舞踊伝承に関するオーラル・ヒストリー研究の成果を、図書『日本人の“からだ”再

考』にて一般向けに公開した。

② 流会派の発生と展開（波照間）

2010年3月に日本スポーツ人類学会大会（於：名桜大学）のシンポジウムにて口頭発表した「流会派の発生と展開」に関する研究を加筆修正し『韓国舞踊史学』12巻に論文として発表した。

③ 伝承の系譜と「ガマク入れ」技法 （波照間・大城・花城）

2009年3月の日本スポーツ人類学会大会（於：早稲田大学）にて口頭発表した「琉球舞踊における玉城盛重系流会派の系譜と伝承」の内容を加筆修正し2つの論文「伝承の系譜」「『ガマク入れ』の伝承」にまとめた（『比較舞踊研究』18巻）。同論文は、玉城盛重の直弟子2名と孫弟子2名を対象に実施した聞き取り調査の結果を、先行研究を踏まえ考察したものである。

④ 玉城盛重系流会派にみる「ガマク入れ」技法の比較（花城）

上記の「ガマク入れ」技法の研究成果に引き続き、玉城盛重系三流派―玉城流（玉城盛義）・島袋流（島袋光裕）・宮城流（宮城能造）―の高弟6名にインフォーマントを拡大し、伝承時の教授法や身体意識に関する聞き取り調査を行った。その成果を比較舞踊学会大会にて報告し、同学会学術機関誌に公表した（『比較舞踊研究』18巻）。

(4) 課題

流会派における技法の比較研究および伝承の系譜（オーラル・ヒストリー）は論文や図書としておおむねまとめ公開することができた。しかし、当初予定していた、インフォーマントの聞き取り時の映像は、個人情報等の様々な理由により非公開となった。

オーラル・ヒストリー聴取時の映像およびテープおこしのドキュメントは、公開か非公開かをインフォーマントに確認する作業が必須である。非常に時間のかかる作業であるが、今後も粘り強く続けて行く予定である。このような地道なプロセスを継続していくなかで対応策を考えていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計7件）

- ① 波照間永子「民族舞踊における男女のしぐさ」『体育の科学』59(9)、p. 599-p. 603, 2009年9月、査読なし
- ② 波照間永子「沖縄舞踊におけるコネリ手の動作類型」『比較舞踊研究』第16巻：p. 57- p. 68, 2010年3月、査読有り
- ③ 波照間永子「琉球舞踊における流会派の

発生と展開」韓国舞踊史学会編『韓国舞踊史学』第12巻：p.181- p.237.

（“Emergence and development of schools (Ryukaiha) in Ryukyuan dancing” *Journal of Korean Dance History*. Vol.12 : p.238- p.240.）2011年6月、査読なし

- ④ 波照間永子「琉球舞踊におけるオーラル・ヒストリー・アーカイブの構築-伝承方法の特性と変容-」Research Institute of Korean Dance in Hanyang University 『우리춤연구』16巻、p.35- p.57、2011年12月、査読なし
- ⑤ 波照間永子・大城ナミ・花城洋子「琉球舞踊における玉城盛重系流会派の系譜」『比較舞踊研究』第18巻、p.9- p.18、2012年3月、査読有り
- ⑥ 波照間永子・大城ナミ・花城洋子「琉球舞踊における技法「ガマク入れ」の伝承-玉城盛重系流会派を対象に-」『比較舞踊研究』第18巻、p.19- p.27、2012年3月、査読有り
- ⑦ 花城洋子「琉球古典舞踊における女踊りの“ガマク入れ”の伝承-玉城盛重系流派の聞き取り調査から-」『比較舞踊研究』第18巻、p.28- p.38、2012年3月、査読有り

〔学会発表〕(計9件)

- ① 波照間永子「琉球舞踊における「わざ言語」の特性と変容」日本体育学会第60回記念大会、2009年8月28日、広島大学
- ② 波照間永子「琉球舞踊にみるアジア諸国の影響」全北大学校人文研究院設立記念国際学術大会（“The Influence of Asian Countries on Ryukyu Dance” *Proceedings of International Conference in Commemoration of Launching Research Center for Humanities, Chonbuk Univ.*）2009年9月25日
- ③ 波照間永子「エイサーの動作分類と幼児向け教材の考案」比較舞踊学会 伝統と舞踊研究会、2010年3月13日、明治大学
- ④ 波照間永子「琉球舞踊における流会派の発生と展開」第11回 日本スポーツ人類学会大会シンポジウム、2010年3月29日、名桜大学
- ⑤ 波照間永子「琉球舞踊の「動作単元データベース」を活用した教材作成の試み」日本体育学会大会、2010年9月9日、中京大学
- ⑥ 花城洋子「身体科学的側面からみた琉球舞踊の所作の特徴-「ガマク入れ」所作の流派間の比較について-」日本体育学会大会、2011年9月27日、鹿屋体育大学
- ⑦ HATERUMA, Nagako “Establishing Oral History Archives of Ryukyuan Dancing: Characteristics and Changes

in a Transmission System ” *International Academic Symposium of the Society of Korean Dance History & Research Institute of Korean Dance*, 2011年10月8日、漢陽大学校（ソウル）

- ⑧ 花城洋子「身体科学的側面からみた琉球舞踊の所作の特徴-「ガマク入れ」所作の流派間の比較について-」日本体育学会大会、2011年9月9日、鹿屋体育大学
- ⑨ 花城洋子「琉球古典舞踊における女踊りの“ガマク入れ”の伝承-玉城盛重系流派の聞き取り調査から-」比較舞踊学会大会、2011年12月11日、こども教育宝仙大学

〔図書〕(計2件)

- ① 波照間永子「琉球舞踊と身体-舞踊技法研究の魅力-」勝方=稲福恵子ほか編『沖縄学入門-空腹の作法-』昭和堂：p.67-p.82、2010年4月
- ② 瀬戸邦弘・杉山千鶴・波照間永子『日本人の“からだ”再考』明和出版、2012年5月

〔その他〕

- ① Web サイト
<http://www.ryubu-ohdb.org/> 「琉球舞踊オーラル・ヒストリー映像アーカイブ」
- ② 報告書
波照間永子『琉球舞踊オーラル・ヒストリー映像アーカイブの構築-伝承の系譜を探る-』2012年10月

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
波照間 永子 (HATERUMA NAGAKO)
明治大学・情報コミュニケーション学部・准教授
研究者番号：80336487
- (2) 研究分担者
花城 洋子 (HANASHIRO YOKO)
名桜大学・人間健康学部・教授
研究者番号：50389623
- (3) 連携研究者
なし
- (4) 研究協力者
大城 ナミ (OSHIRO NAMI)
親泊本流親扇照志野の会・会主